様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２６ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2013～2015
課題番号：２５５９０１６６

研究課題名（和文）幼児教育環境と幼児の共発達に関する生態・文化的アプローチ

研究課題名（英文）Ecological and cultural approach to developing a community of early chilldhood settings

研究代表者
川田　学（KAWATA, Manabu）

北海道大学・教育学研究科（研究院）・准教授

研究者番号：８０４０３７６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，幼児教育の環境と幼児の発達との関係を統合的に理解するための枠組みを整理した。特に，物理的・コミュニケーション的・時間的という3つの環境がどうアレンジされていくのかについて，園内の掲示や遊びの道具，行事，入園後間もない3歳児たちの遊び方などを分析対象とした。研究を通して，特に時間的環境のアレンジ（たとえば，1日の保育の流れのつくり方，行事の練習の開始や遊戯等のために重要な道具の導入のタイミング）が，保育者による幼児の発達の見立てや予測と深く関わっており，時間的環境の変容を分析することによって，幼児教育コミュニティの変化と幼児の発達を統合的に理解できる可能性が示された。

研究成果の概要（英文）：In this study, we examined the relationship between early childhood settings (i.e. kindergarten) and experiences of young children to generate a framework for integrating educational practices and human development. Focused on three environmental arrangements - physical, communicative, temporal - , we analyzed how to arrange posted notices about daily or longer-term schedule for children, tools or materials for play, varying events (e.g. UNDOKAI athletic meet), and so on. Particularly, systematic description of temporal arrangements by teachers (or mutual constitution of teachers and children) was considered crucial for integrating environment and children.

研究分野：発達心理学

キーワード：幼稚園　幼児　発達　環境　行事　時間的環境　仲間関係　保育者

１．研究開始当初の背景

幼児教育という具体的環境の変容と共に，幼児たちはどのように発達していくのか。本研究は，幼児教育のコミュニティ（幼稚園）において，その教育環境の総体的な変容と，そこで育つ幼児の姿を，生態学的な観点と社会文化的な観点を総合したアプローチによって検討することを目的とした。特定の幼稚園を丸ごと対象とし，3 年間を縦断的に追跡することにより，個人・集団・コミュニティの各層で生じる変化とその相互連関性を検討しようとした。これを通じて，幼児の発達研究と幼児教育の実践を総合的に記述するための概念的・方法的示唆を得ようと考えた。

２．研究の目的

具体的な研究目的として，以下の３点を設定した。

（１）環境（物理的，コミュニケーション的，時間的）の設定や改変と，幼児の活動との関係を検討すること。

（２）行事（特に運動会）の準備・展開過程と幼児の仲間関係の変容がどのような連関性をもっているかを検討すること。また，その方法（仲間関係の変容を捉える指標等）を検討すること。

（３）幼児個々人がもっている遊びや生活のなかでの「テーマ」を探り，その変容を追跡すること。

３．研究の方法

上記の３点に沿って示す。

（１）については，更に以下の４点を中心に実施した。

①時間的環境の変化を記録するための場面や指標として，幼児たちへの伝達・共有を目的としたスケジュールボードや日程を示す掲示類の定期的な撮影と記録した。

②時間的環境と物理的環境の交差する事象として，行事（特に運動会）のなかで，特定の遊戯や競技の実施に不可欠の道具の導入時期を記録し，それがどのような幼児の変化と教師の判断との関係で生じているのかを検討した。

③物理的環境として，遊具・玩具とも自然物とも異なる切り出された棒が，幼児たちにどのように扱われ，伝播していくか，教師たちはそれにどう対応するかを観察・分析した。

④コミュニケーション的環境として，教師同士のコミュニケーションの量と質について，名札型のセンシング機器（株式会社日立ハイテクノロジーズ社製のビジネス顕微鏡®）を用い，保育形態の異なる３，４，５歳児の担任集団ごとに比較検討した。

（２）については，運動会のような行事活動の過程で，幼児たちの従前の仲間関係が，何を契機とし，どのように変容し，行事当日の後ではどうなっているかを観察・分析した。

（３）については，入園したばかりの３歳児約８０名のなかかから，教師たちが遊びの面で課題をもつと見立てた数名の幼児について，教師たちが「つぶやき記録」と呼ぶ一言保育記録をつけ，月に１度のカンファレンスで互いのつぶやき記録を読み合い，当該の子どもにとって遊びがどのような状態にあるのかを検討し，入園から夏休みまでの時期を縦断的に検討した。

４．研究成果

本研究の成果として，幼児教育コミュニティそのものの変容を検討するためのいくつかの概念や指標を提出した。主要なものとして以下の３点を挙げる。

（１）環境のアレンジ：小学校以降の教育ではナショナルカリキュラムと具体的実践を媒介するものとしての教科書が存在するため，教科書の検討・分析が実践と教育研究の両面にとって明示的である。そして，教科書は学習主体である子どもにも保護者にも明示される。これに対し，幼児教育では官製の指導書や民間による種々の雑誌は存在するものの，教科書に当たるメディアはない。そのため，実践を分析するための具体的な指標をどのような原理で導くかが１つの重要課題となる。それは大局的には「環境」であるが，環境と言うだけでは完成したスタティックな概念にとどまる。本研究では，主に教師と幼児によって実践の具体的な環境がつくられていく行為を「アレンジ」と呼び，物理的・コミュニケーション的・時間的という３つのアレンジの観点を提案した。

（２）道具の導入：時間的アレンジの具体的な例として，運動会における道具（鳴子や半被）の導入のタイミングという客観的な指標を明示し，その前後において教師と幼児の両方においてどのような出来事があったかを分析し得た。実践は日々切れ目なく展開しており，研究方法上どこを「はじまり」とみなし，「おわり」とみなすかは，ともすれば印象論の応酬に陥りがちな子ども研究を錯綜させないために，重要なルール設定である。

（３）準遊材性：物理的環境のアレンジとして，幼児教育の場でどのようなモノがどのように交渉されているかを分析することは重要である。本研究では，園庭環境におけるモノの分類作業を行い，研究実施園では意図的とも非意図的ともなく受容されていた切り出された棒が独特の環境的性質を占めていることが，半年以上の観察によって示唆された。それが，準遊材性という性質である。準遊材とは，教育機関にありながら，お片づけの対象にもならず，破損や消失への意識づけが弱いにもかかわらず，実際の幼児および教師の遊びの中では極めて頻回に用いられるモノである。幼児教育環境における準遊材的なモノのアレンジの有無や程度により，その幼児教育コミュニティの志向や変遷を分析できる可能性が示唆された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　14　件）
①及川智博・川田 学（2015）運動会練習初期における活動規範の形成と共有 ：ある幼稚園の年長遊戯に着目して 子ども発達臨床研究，7，37-47．　査読無
②川田　学（2015）園庭における 2 本の棒の観察：保育環境における準遊材的なものについて　心理科学，36，54-66．　査読有
③川田　学（2015）心理学的子ども理解と実践的子ども理解：実践者を不自由にする「まなざし」をどう中和するか，障害者問題研究，43，178-185．　査読有（依頼論文）
④川田　学（2015）発達心理学的自由論 12 年齢と発達　現代と保育，92，74-89．　査読無
⑤川田　学（2015）発達心理学的自由論 11 待ってくれる環境　現代と保育，91，72-83．査読無
⑥川田　学・井内聖（2014）幼児教育環境と幼児の共発達に関する生態・文化的アプローチ（1）：研究の視点とフィールドの特性．子ども発達臨床研究，5，35-57．査読無
⑦川田　学（2014）年齢，獲得，定型：発達心理学における『発達』の前提となっているもの　子ども発達臨床研究，6，7-14．査読無
⑧川田　学（2014）発達心理学的自由論 10 保育の環境とそのアレンジ　現代と保育，90，98-112．　査読無
⑨川田　学（2014）発達心理学的自由論 9　ぼっこと子どものエコロジー　現代と保育，89，100-113．　査読無
⑩川田　学（2014）発達心理学的自由論 8　発達の節と出来事の節．現代と保育，88，86-93．　査読無
⑪川田　学（2013）大人の協力の連鎖が育む“一連のつながり感”．保育通信，700，34-35．査読無
⑫川田　学（2013）生活が教育であるための若干の内容論と文化的アレンジについて．保育通信，699，20-23．　査読無
⑬川田　学（2013）乳幼児の生活を見えるようにするには．心理学ワールド，62，13-16．査読無
⑭川田　学（2013）発達心理学的自由論 7　再考・2 歳児の形容詞．現代と保育，87，104-117．　査読無

〔学会発表〕（計　8　件）
①及川智博・川田 学（2016）運動会における集団の単一焦点化と仲間関係の変容 ：年長児のリレー遊びにおける流動性とその消失に注目して．日本発達心理学第 27 回大会．PB-38．北海道大学（北海道，札幌市）．2016 年 4 月 29 日-5 月 1 日．
②井内　聖・川田　学・伊藤未来（2015）3 歳児が「遊びを自分のものにする」ための援助の視点と環境づくり．第 6 回幼児教育実践学会口頭発表，郡山女子大学（福島県，郡山市），2015 年 8 月 19 日．
③川田　学・井内　聖（2015）幼稚園の園庭に棒があることの意味．日本保育学会第 68 回大会論文集，椙山女学園大学（愛知県，名古屋市），2015 年 5 月 9-10 日．
④及川智博・川田 学（2015）　運動会の練習過程における時間的構造 ：ある幼稚園の年長遊戯の年度間比較による検討．日本保育学会第 68 回大会論文集，椙山女学園大学（愛知県，名古屋市），2015 年 5 月 9-10 日．
⑤及川智博・川田 学（2015）運動会を組織化する象徴的道具 ：年長学年における遊戯の練習過程に着目して．日本発達心理学会第 26 回大会．P5-75．東京大学（東京都，文京区），　2015 年 3 月 20-22 日．
⑥Oikawa，T.，& Kawata，M.　（2014）Participation in the kindergarten education culture and development of the 5-year-grades' community: The participant observation of the traditional dance's practices in a Japanese kindergarten. Pacific Early Childhood Education Research Association 15th Annual Conference，B2.025.(Poster Presentation)，Bali，Indonesia. 8-10 August, 2014.
⑦川田　学（2014）幼稚園における教師間コミュニケーションの可視化：学年および保育形態による傾向の検討．日本保育学会第 67 回大会論文集，大阪総合保育大学（大阪府，大阪市），2014 年 5 月 17-18 日．
⑧川田　学（2013）保育における「育ち合い」をとらえる体系試論，日本保育学会第 66 回大会，学会企画シンポジウム（保育臨床相談研修企画委員会企画「保育の中での育ち合いを見通した支援」），話題提供者，中村学園大学（福岡県，福岡市），2013 年 5 月 11-12 日．

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
川田　学（KAWATA，Manabu）
北海道大学・大学院教育学研究院・准教授
研究者番号：80403765

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
及川智博（OIKAWA，Tomohiro）
井内　聖（IUCHI，Sei）